活動報告

広島平和記念式典に参加しました

8月6日、広島平和記念式典に参加しました。高砂市議会では隔年で、広島、長崎の式典に毎年1人参加しています。今年初めて参加し、平和の大切さや戦争の悲惨さを再確認しました。

大学生の議員インターンシップ受け入れ

この夏も、大学生の議員インターンシップを受け入れました。今回のインターン生は未来国会として、30年後の国家予算を考える政策コンテストに挑戦しました。海に面した高砂市でのインターンシップらしく、瀬戸内海の漁獲高の減少に対する政策を考え、近畿地区で4位となりました。

しまづはるか後援会

〒676-0071　高砂市伊保東2ー2ー23
TEL/FAX:079-439-2733
ホームページ: http://shimazuharuka.com
E-mail:shimazu.takasago@gmail.com

議会内容をグラフィックレポートで配信中!

グラフィックレポートにて議会の内容をブログやFacebook、Instagramで発信しています。ぜひご覧になっていただければと思います。

ブログ: http://shimazuharuka.com/blog
Facebookページ:島津明香
Twitter: @shimazu_haruka

しまづはるか

若い視点で未来を創る

SHIMAZU　HARUKA

市政報告 News 26号

議員活動も初当選から丸5年が経ち、6年目を迎えました。
9月定例会では新たな委員会への所属も決まりました。
今後も皆様からのご意見をいただきながら、活動の幅を広げていきたく思っています。
なお一層のご指導ご鞭撻、よろしくお願いいたします。

9月定例会報告

＜所属委員会の変更＞
2019年9月～2020年9月は文教厚生常任委員会委員長、議会運営委員会 委員を務めます。

一般質問

SDGsの推進に向けた取り組みについて

『SDGs』とは？

持続可能な開発目標。2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

これまでの議会報告などからわかる、高砂市におけるSDGsの推進について

第５次総合計画の中で**SDGs**を関連づけていく。高砂市が貢献できる**SDGs**やターゲットを抽出していく予定。

『第5次総合計画』とは？ → 令和3年度以降の10年間の高砂市の基本的な指針

島津

SDGsを関連づけるにあたって、総花的にならないよう、取り組むべきターゲットを絞るとともに、高砂市にとって、誰一人取り残さない社会の実現には何が必要であるか考えていくべきではないか。

SDGsに取り組むにあたり、目標達成よりも考え方の理解や浸透、実践が重要であると考えている。市が取り組むべきものを見極め、枠組みに入らないものについても、市が考えるあるべき姿に対して、市独自の目標を設定していく。他市の事例も参考に、全ての施策をSDGsに関連づけるのではなく、一定の根拠をもった関連づけを行っていこうと考えている。

高砂市のあるべき姿に近づき、誰一人取り残さないSDGsの実践につながる**第5次総合計画**となるよう、策定を進めていく。

答弁

不妊治療助成の拡充について

現状の施策（平成28年度から開始）

		一般不妊治療	特定不妊治療	不育症
年 齢		43歳未満		
回 数		40歳未満　通算6回まで 40歳～43歳未満　通算3回まで		
助成費用	県	―	1回あたり上限 15万円※	―
	市	1回あたり上限 10万円	1回あたり上限 10万円※	1回あたり上限 10万円

※治療方法によって異なる場合あり

島津

年齢はともかく、回数や助成費用に制限があり、また助成対象には夫婦合算所得730万円未満という条件もある。多額の費用が必要となる不妊治療に対して、助成の拡充を求める。

回数について

不妊治療を数回行った場合の分娩に至った割合を示す累積分娩割合では、6回を超えるとその増加傾向は緩慢になり、分娩に至った方の約90％は6回までの治療で妊娠・出産に至っているため、現状の回数を定めている。

助成費用について

一般不妊治療と不育症治療については、現在の要件でもほとんどの方に治療費全額が助成できている。特定不妊治療では、最大で約75万円、最小で約17万円と差が見られる。医療機関によって治療費に違いがあるため、全額助成についてはその状況等を十分に見極めたい。

所得制限について

国が児童手当の支給率約90％を参考に助成受給率を90％に見込んで設定した夫婦合算所得である。高額所得世帯の負担感は低所得世帯に比べて重くはないと考えている。

答弁

島津

近年は不妊治療開始年齢が低年齢化しており、以前は35歳程度で治療を始める方が多かったものが26～34歳で始める方が増えている。その分、一度治療をやめてまた再開するケースや2人目不妊の治療も行うケースが増加している。現状の回数では足りないケースがあることを考えていただきたい。

＊質問を終えて一言...＊

高額所得世帯だからといって負担感が重くない金額ではないと考えています。引き続き、声を届けていきたく思っています。

島津